

英語習得のための共同 WEB ページコンテスト

高等学校 2 年生・英語
三重県立川越高等学校 英語科 近藤 泰城
yasuki@bebop.gr.jp
<http://mie-c.ed.jp/hkawag/>

キーワード WEB ページコンテスト, コミュニケーション, 必然的なニーズ, メーリングリスト

1. はじめに

これまで、二年間、コンピュータ教育開発センターの援助を受けながら、英語学習でのインターネットの実践を積み重ねてきた。1980 年代に唱えられたコミュニケーション・アプローチは、学習者が、英語を、コミュニケーションのためのツールとして使いこなせるようになるためには、実際にツールとして使うトレーニングの場を出来るだけたくさん与えなくてはならないと主張している。そして、トレーニングの場面は、擬似的なものではなく、インフォメーションギャップを埋めるための伝達や、合意や問題解決をめざす、双方向的なやりとりでなくてはならないとも主張している。また、それが、別の言語を母語とする人々との交流などであればなおさらコミュニケーションの必然性が高まるであろう。インターネットの普及によって、そのような語学学習環境の可能性が大きく広がったと言える。過去二年間、様々な交流を試みてきたが、最も大きな悩みは、「身につく」ために十分な交流量が得られなかったことである。そのため、今回は、共同 WEB ページ作成、コンテストというコミュニケーションの必然的なニーズを生み出す仕掛けを考え、実行しようとした。

2. 実践の準備

交流相手の確保が最も大きな課題であった。筆者が担当する本校二年生英語科は、2 クラス 8 4 名の生徒がいる。インターネット上には、インターネット利用の教育プロジェクトの相手を探せるようなサイトが多数あるが、それらに紹介されている交流希望は、ほとんどの場合、20 名くらいまでの、日本でいう少人数クラスのものである。インターネットを教育利用できるような先進国では、このようなクラスサイズが常識なのであろう。ともあれ、二学期からの実践に向けて、一学期中ごろから、交流相手探しを始めた。利用したのは、<http://www.iecc.org/>、<http://www.epals.com/> で、双方とも大変優れたサイトである。特に、Epals は、交流相手探しだけでなく、無料 WEB メールサービスも行っており、筆者担当の生徒も利用している。あらかじめ名簿を作成しておけば、84 名分のアカウントを作成するのに 3 分程度で出来てしまう。実践を始めた当時は、これらのサイトに交流希望のメールを投稿するのも全て自分で行っていたが、今回は、チームティーチングをしている、ALT (アシスタント・ランゲージ・ティーチャー) にやってもらった。大変助かった。7 月に入り、ペルーの高校の先生から、83 名の生徒のクラスを持っていて、交流したいという連絡が届いた。こんな素晴らしい話はないとさっそくコンタクトをとりはじめた。一学期から交流のある、ドイツ、韓国、アメリカの生徒に参加してもらった。

3. 実践の流れ

交流相手が見つかって以降の実践の流れを日記風に綴ってみた。

- 7 月 21 日 ペルーのガルシア先生からメールが届く。彼女は直接は参加生徒を担当しておらず、我々の投稿を見て、他の先生に紹介してくれるということであった。
- 9 月 2 日 コンピューターサイエンスのダニエル先生からメールが届く。
- 9 月 5 日 ペルーの英語教師 Perla 先生からメールが届く。
- 9 月 19 日 教員用メーリングリストを立ち上げる。
- 9 月 19 日 生徒のグループの人数を一カ国 2 人にしようと Daniel 先生から申し出がある。
- 9 月 20 日 ペルーから生徒のリストが届く。
- 9 月 22 日 ペルーと日本の生徒のグループ分けが終了、リストを教員メーリングリストに流す。
- 9 月 25 日 このころ、ペルーのダニエル先生が、<http://egroups.com/> で、42 個の生徒用メーリングリストを作成してくれる。この積極性に筆者は非常に喜んだ。
- 10 月 4 日 アメリカ、韓国、ドイツの先生に、参加生徒の確認をお願いする。
- 10 月 12 日 アメリカ、韓国、ドイツの生徒のグループ分けを終了。本校生徒にくじを引かせた。時間がかかりすぎた。ここからは機械的にやってしまうべきだった。
- 10 月 17 日 アメリカ、韓国、ドイツの生徒のメーリングリストへの登録を終了。トピックに関するディスカッションを始めるように指示。
- 11 月 1 日 ペルーの生徒がトピックに関するアイデアをメールで送信。同時に、ペルーの生徒は最終学年であり、11 月い

E スクエア・プロジェクト成果発表会

- っぱいで、学校は終了という連絡がある。愕然とする。
- 11月1日 トップページと三つの下位ページからなるWEBページのテンプレートを作成し、生徒に見せる。反省・作成の技術的な面での負担が大きく、本来の「英語を使う活動」に力が回らなくなる。
- 11月2日 映画、音楽、アニメなどをトピックに選んでいる生徒が、オリジナルの写真、画像が使えないということで、自作のイラストを作成し始める生徒があり、授業本来の目的からそれるので、課題提出に向け、文章のみに集中するように指示。
- 11月6日 トピックに関する合意に至っていないが、時間がないので、作成に入ると、教員用のメーリングリストでアナウンスする。
- 11月7日 川越生徒単独で、WEBページ作成に入るように指示。デザイン、写真はなしで、テキストのみを期末テスト前に作成を終え、電子メールで提出するように指示する。期末テスト一週間前までに提出。でないとい他の教科の成績に影響を与えるため。
- 11月24日 レポート提出締め切り。電子メールで、筆者とALTに提出。
- 三学期以降 二学期末に向けて、作成したテキストを元にWEBページを完成させ、海外の生徒からのフィードバックを得るなどしたいと考えている。

4. 実践の評価

4.1 コミュニケーション量

当初の目的である、多量のコミュニケーションについては、昨年度に比較すれば、交換されたメールは多い。今回は、メーリングリストを利用した交流であったが、グループごとの投稿数は以下の通りであった。同一メールが二回流れていることもあり、また数行程度のメールも多いので、数字の半分ぐらいをイメージしていただきたい。内容を読んでみると、トピックを決めるためのディスカッションなどは、内容の薄いものも多い。やはり、時間をかけて、エッセイのようなものを書かせた方がよいのではという気がする。

	本校生徒	海外生徒	合計
平均	10.7	11	21.7
最大	25	21	34
最小	2	4	10

4.2 WEBページ作成技術と英語学習のバランス

ホームページを作成し始めると、生徒はイラストを描いたり、かわいいアイコンを置いたり、凝ったタイトル文字を作ることに非常に興味を示した。後者二つは筆者が紹介したものなので、筆者に責任があるが、本来の「英語を使う機会」でないところに大きな時間を注ぐことになってしまいそうであった。そこで、「テキストのみを採点します」というアナウンスをした。また、三学期になってからも、授業時間数が少なく、その中で、デザインを意識したWEBページを完成させようとする、「英語を使う機会」から外れるので、デザインは最低限にし、「自分たちのWEBページのコマーシャル」を書く課題を与えた。このコマーシャルとタイトル、生徒名で、リストページを作り、海外の生徒からもフィードバックを得たいと考えている。

4.3 生徒自らが交流相手を探す

ミスコンセプション(文化的な先入観)をテーマに選んだ生徒たちは、相手が必要なので、自分で相手を探させることにし、次のようなサイト(<http://www.japan-guide.com/penfriend/index.j.mv>)を紹介した。幸い、よい相手が見つかり、食事のマナーにおけるゲップについて面白い文を書いていた。このように生徒自身が自分で交流相手を探すことも十分可能である。三重県桑名市立陵成中学校、中川祥治先生は、<http://www.englishtown.com/>というサイトで、生徒に交流相手を選ばせ、好結果を得ているとのことである。

5. まとめ

共同WEBページ作成、コンテストというコミュニケーションの必然的なニーズを生み出す仕掛けによって、実際にツールとして英語を使うトレーニングの場を出来るだけたくさん与える、という当初のもくろみは成功したとはいえない。その原因としては、「1)ペルーの生徒の卒業で活動が出来なくなった、また、それを知ったのが遅かった。2)生徒メーリングリスト立ち上げにヶ月以上かかってしまった。大変ではあるが、このあたりは迅速に行わなくてはならない。3)WEBページのトピックについては、望ましいものをリストにして与え、映画、音楽、アニメなど著作権の問題のあるようなものは除いておくという配慮が必要であった。4)学期制の違いなどを考慮すると、今回のコンテストのような大きなプロジェクトは無理があり、エッセイなどを送信しあう方が、結果的には、英語を使用する量は増えるのではないかと思われる」などが考えられる。今後の参考としたい。